

2020年3月期 第1四半期
決算発表説明資料



2019年8月8日
エンシュウ株式会社
(東証一部 6218)

I. 連結決算概要

● 全社

(1) 全社経営成績

● 工作機械関連事業部門

(2) 地域別売上高・営業利益

(3) 地域別売上高比率

(4) 受注高・受注残高

● 輸送機器関連事業部門

(5) 経営成績

II. 参考資料

● 四半期業績推移

I. (1) 全社 経営成績



公表＝前回業績予想(5/14) (単位:百万円)

●2019年度 第1四半期業績概要【売上同程度・利益高水準】

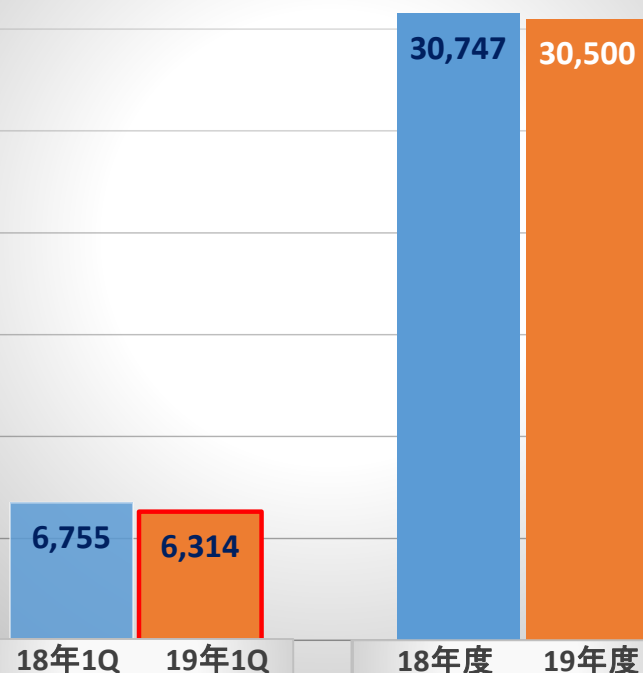
全社売上高は6,314百万円（前年同期比6.5%減）と同程度に推移
 営業利益は工作機械事業において原価低減の効果が上がったことにより、
 営業利益655百万円（前年同期比96.3%増）と大幅な増益

●2019年度 通期業績見通し【増配・記念配当】

売上高については、工作機械関連事業の環境が厳しいこともあり、公表32,000百万円を30,500百万円（前期比0.8%減）と前期比同程度に修正
 営業利益については、輸送機器関連事業が不調見通しであることや、工機の受注環境が厳しくなっているものの、営業利益2,100百万円の公表値を確保する見込み
 2020年3月期の配当は、前期より5円増額し普通配当15円、100周年記念配当15円を加え、1株当たり30円を予定

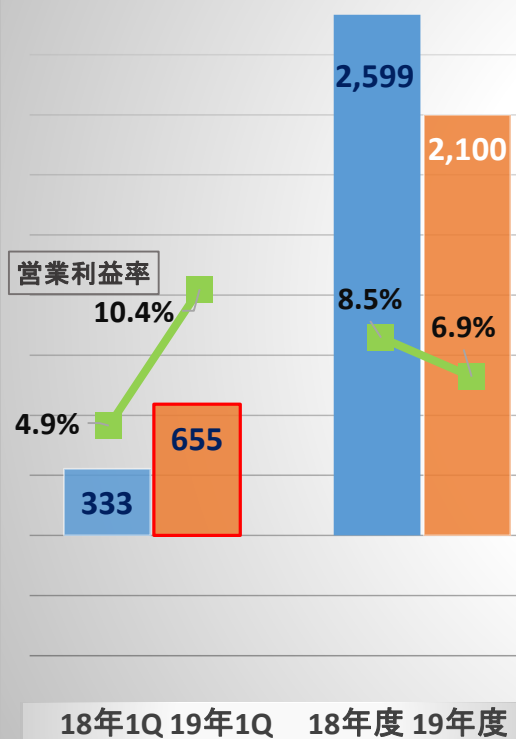
売上高

公表：32,000
 ※19年度は予測



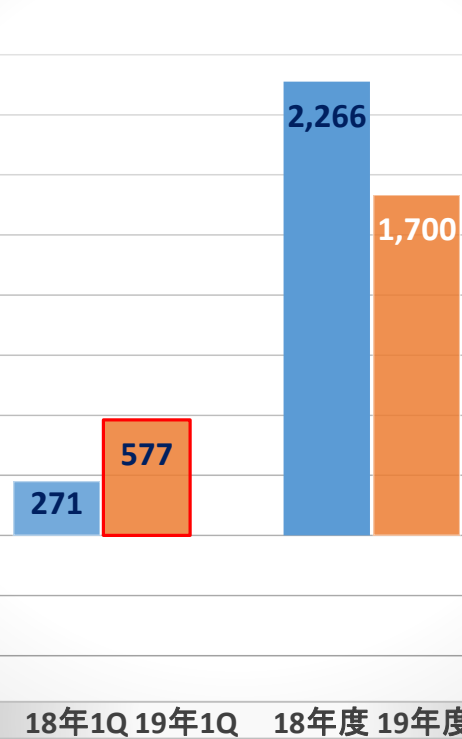
営業利益

公表：2,100



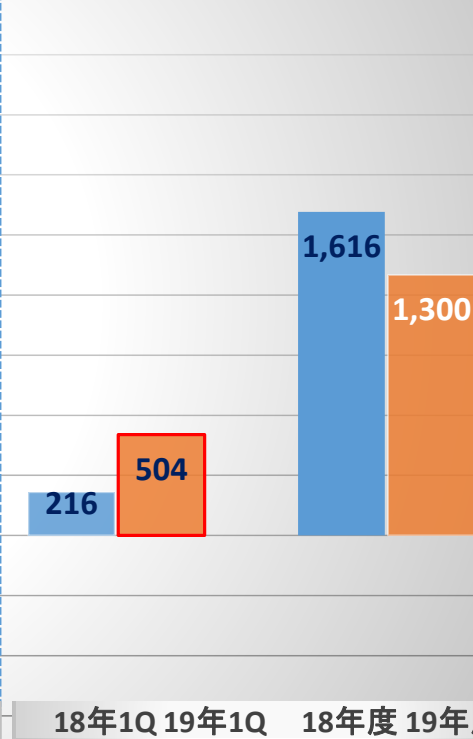
経常利益

公表：1,700



当期純利益

公表：1,300
 ※19年度は予測



I. (2) 工作機械関連事業部門 地域別売上高・営業利益

●2019年度 第1四半期業績概要

売上高については、アジアや国内を中心に売上を伸ばしたが、北米、欧州の売上が伸びず、売上高3,828百万円（前年同期比8.3%減）

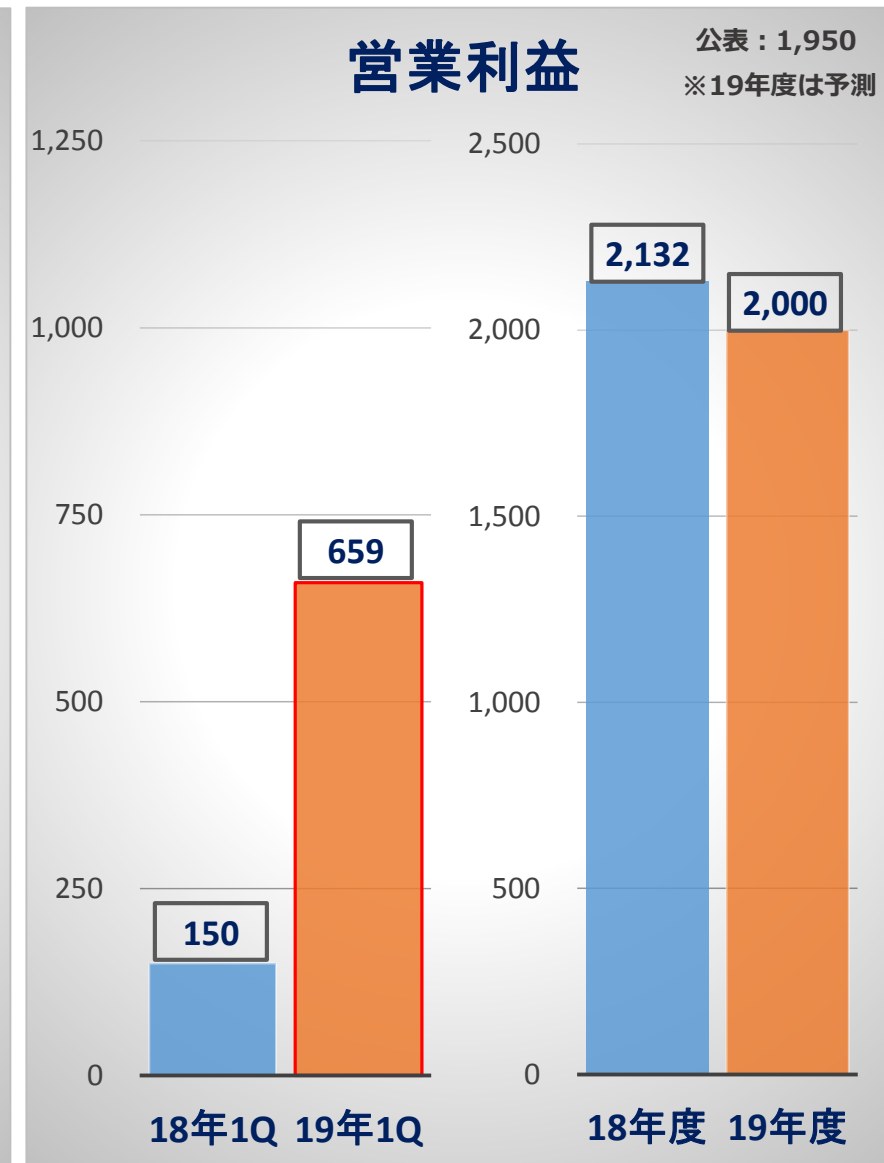
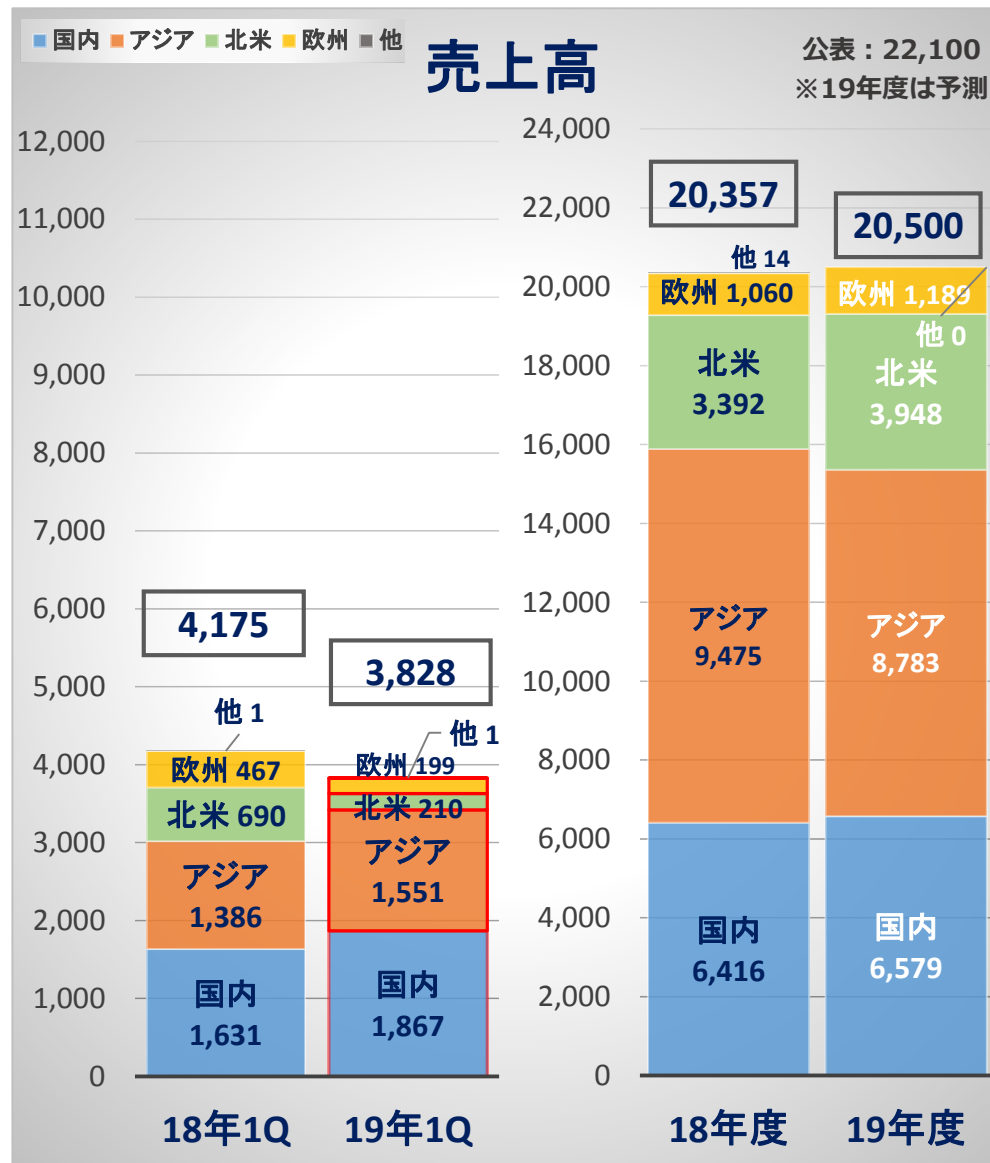
損益面においては、案件毎に技術面での原価低減を徹底したことや、製造面での効率アップ等の施策を推進した効果により、営業利益659百万円（前期比337.2%増）と大幅な増益

●2019年度 通期業績見通し

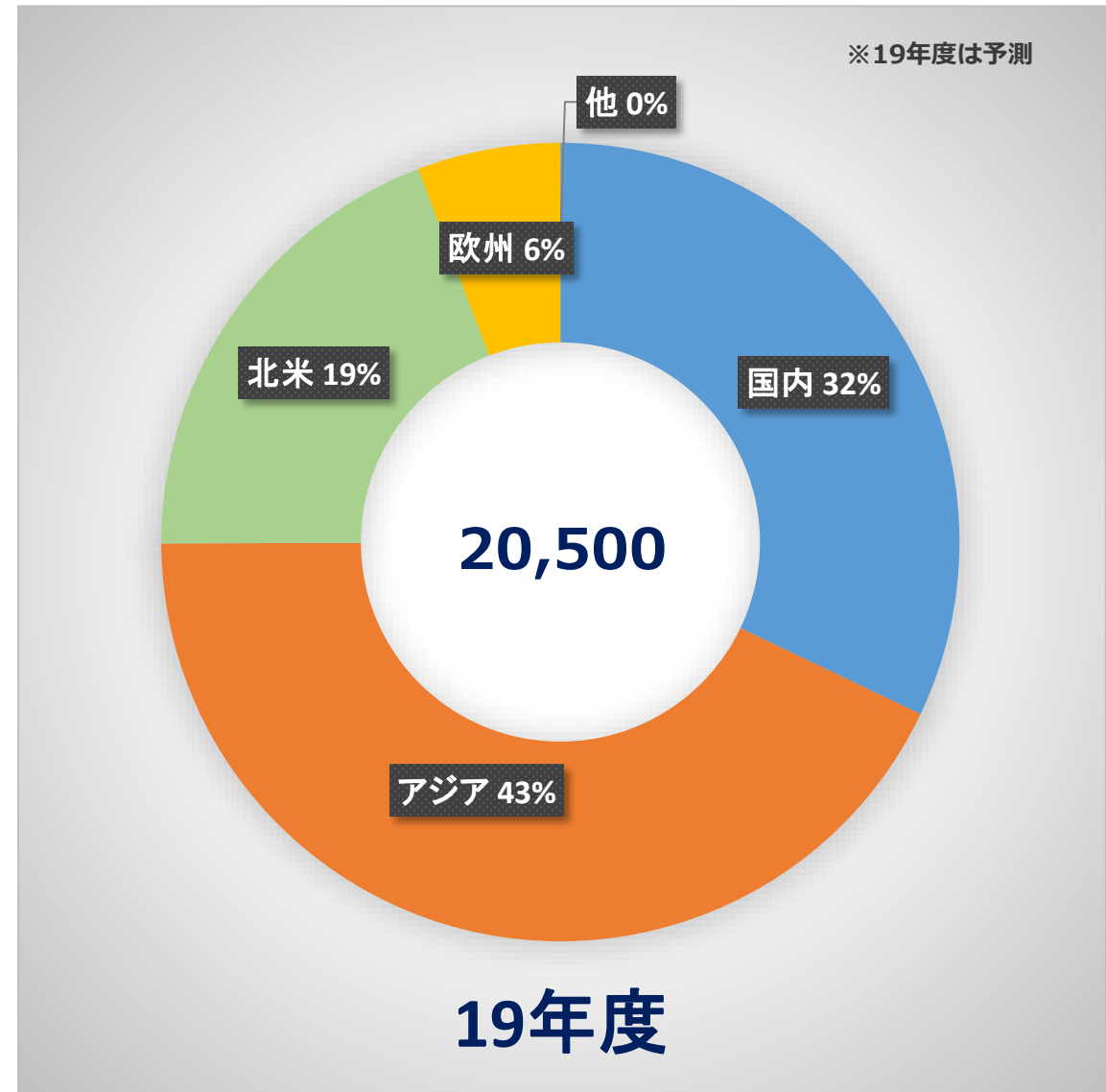
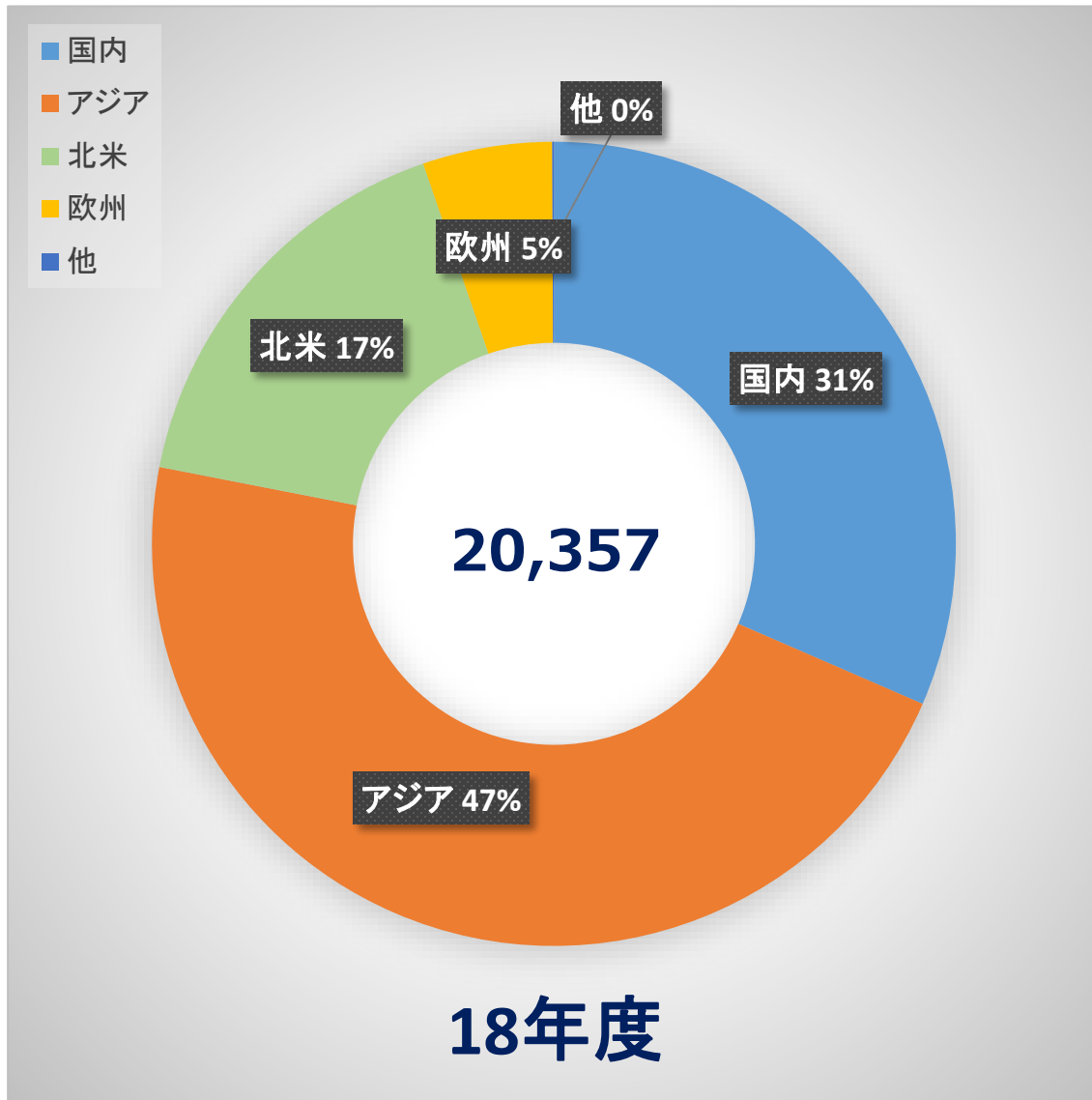
受注環境が厳しくなっているが、売上・利益ともに前期と同程度を確保する見込み

売上高は前回公表値を下回るものの、国内、北米が堅調に推移すると見込まれ、20,500百万円（前期比0.7%増）と前期比同程度を予想

損益面については、受注環境が厳しい中、収益改善施策により収益を向上することにより、営業利益2,000百万円（前期比6.1%減）を予想



I. (3) 工作機械関連事業部門 地域別売上高比率

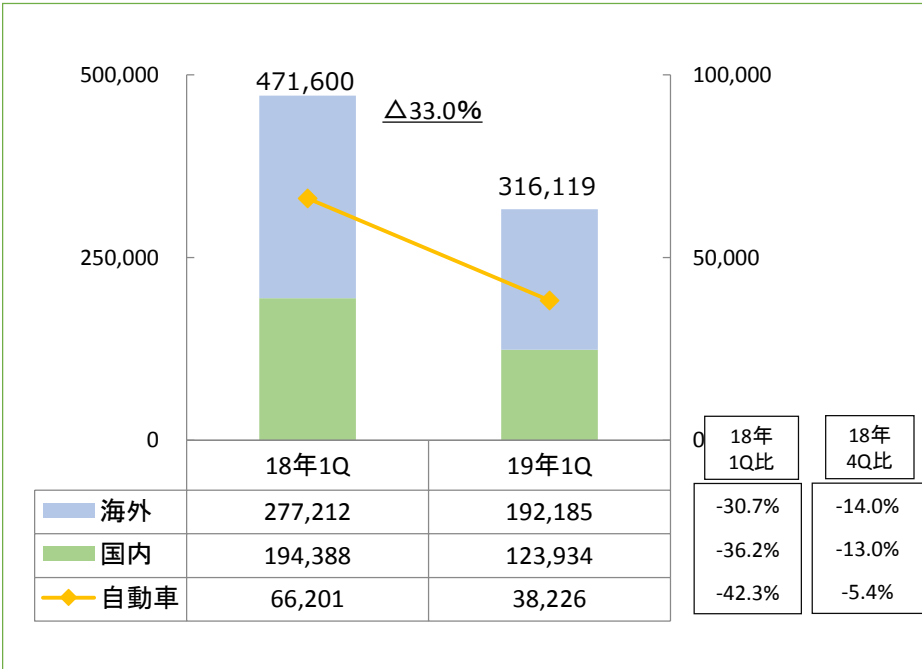


I. (4) 工作機械関連事業部門 受注高・受注残高

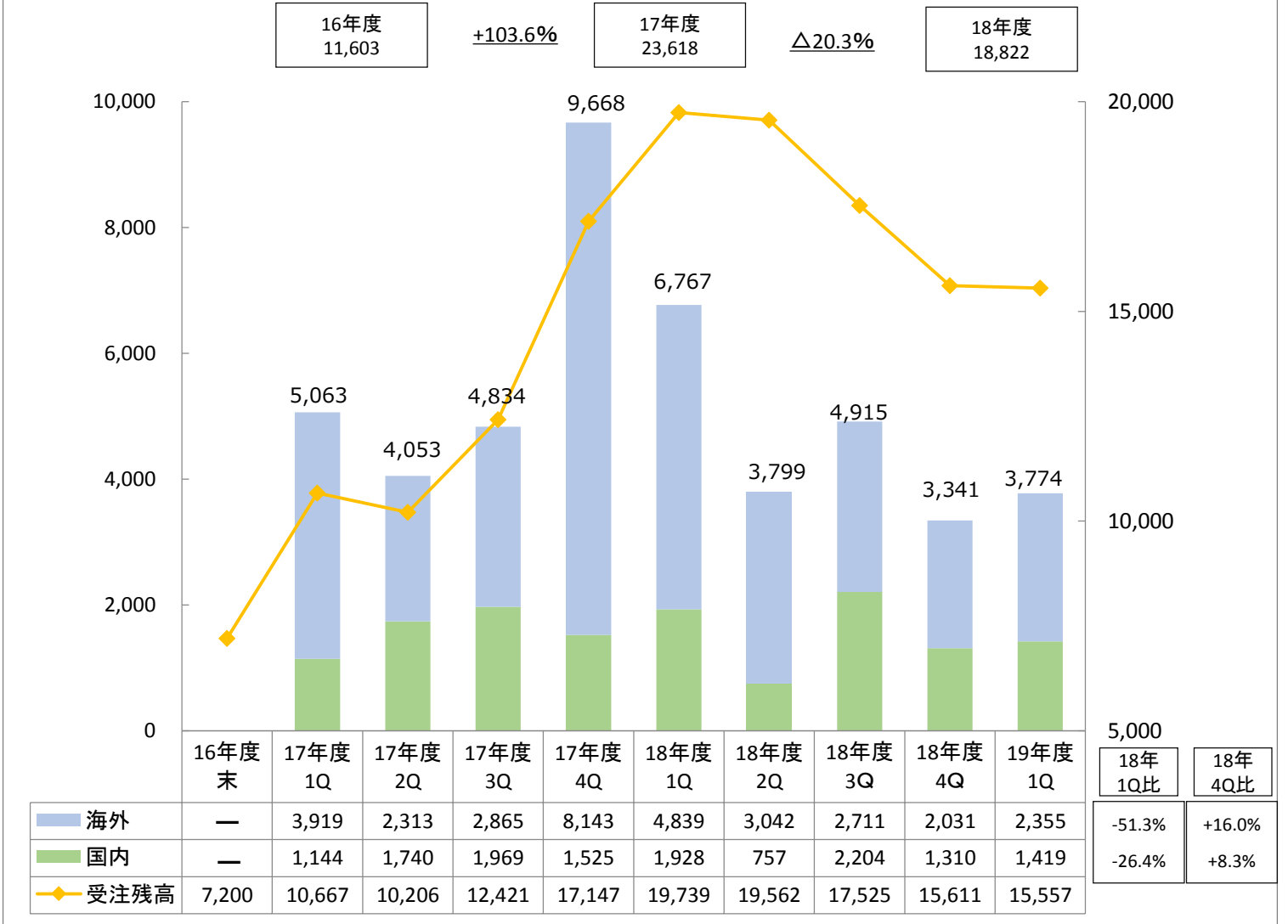
(単位:百万円)

19年1Qの日工会受注総額は、3,161億円と前年同期比減少が続いており、19年6月単月では1,000億円を下回った
 当社の19年度1Qの受注は、日工会と比較しても前年同期比で大きく落ちているが、これは18年度1Qに大型案件の受注があったためであり、国内、海外ともに受注は堅調に推移している
 今後についても厳しい受注環境が続くと考えられるが、引合を確実に受注に結びつけ、売上確保を目指していく

☆日本工作機械工業会受注推移



☆当社の連結受注高及び連結受注残高推移



I. (5) 輸送機器関連事業部門 経営成績

●2019年度 第1四半期業績概要

売上高については、国内海外ともに減少したことから2,467百万円（前年同期比3.7%減）と減収

営業利益については、固定費削減や生産性向上活動を継続したが、経費負担が重く営業利益▲17百万円（前年同期は170百万円）

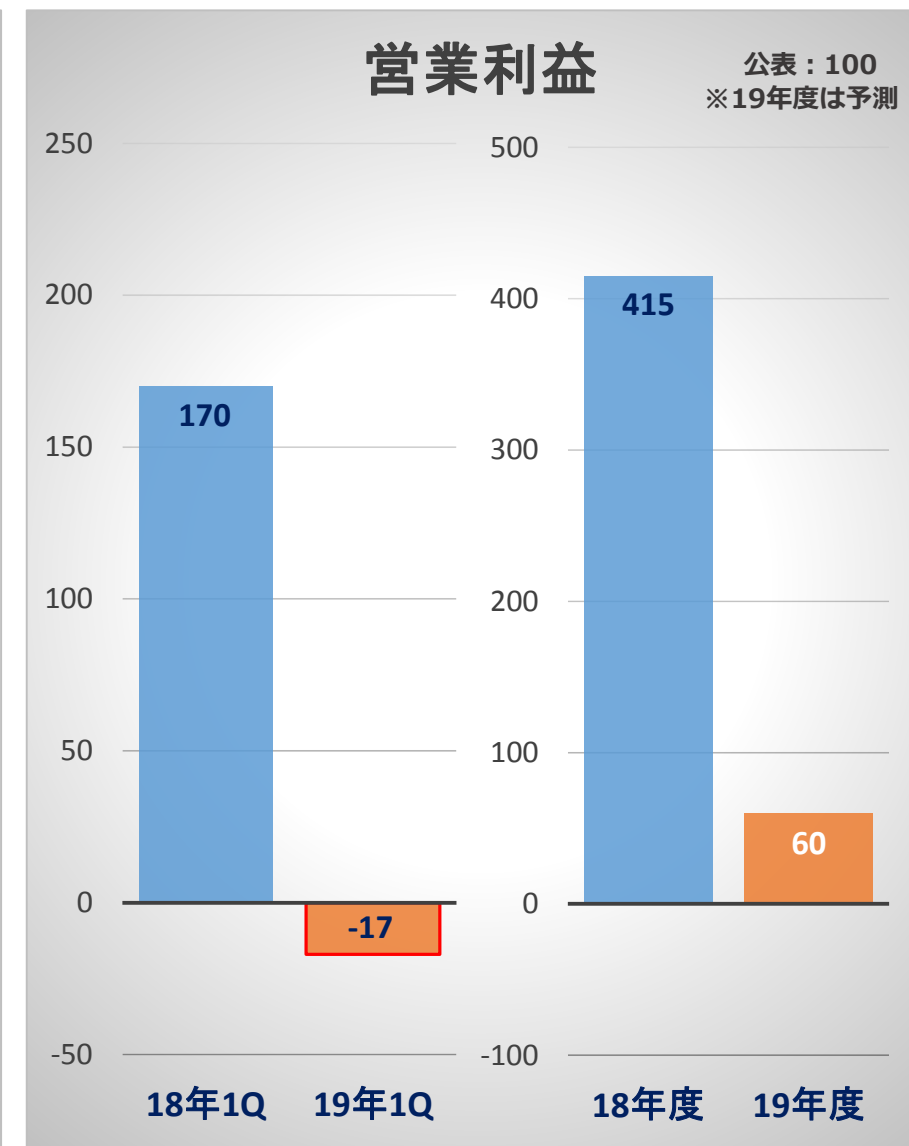
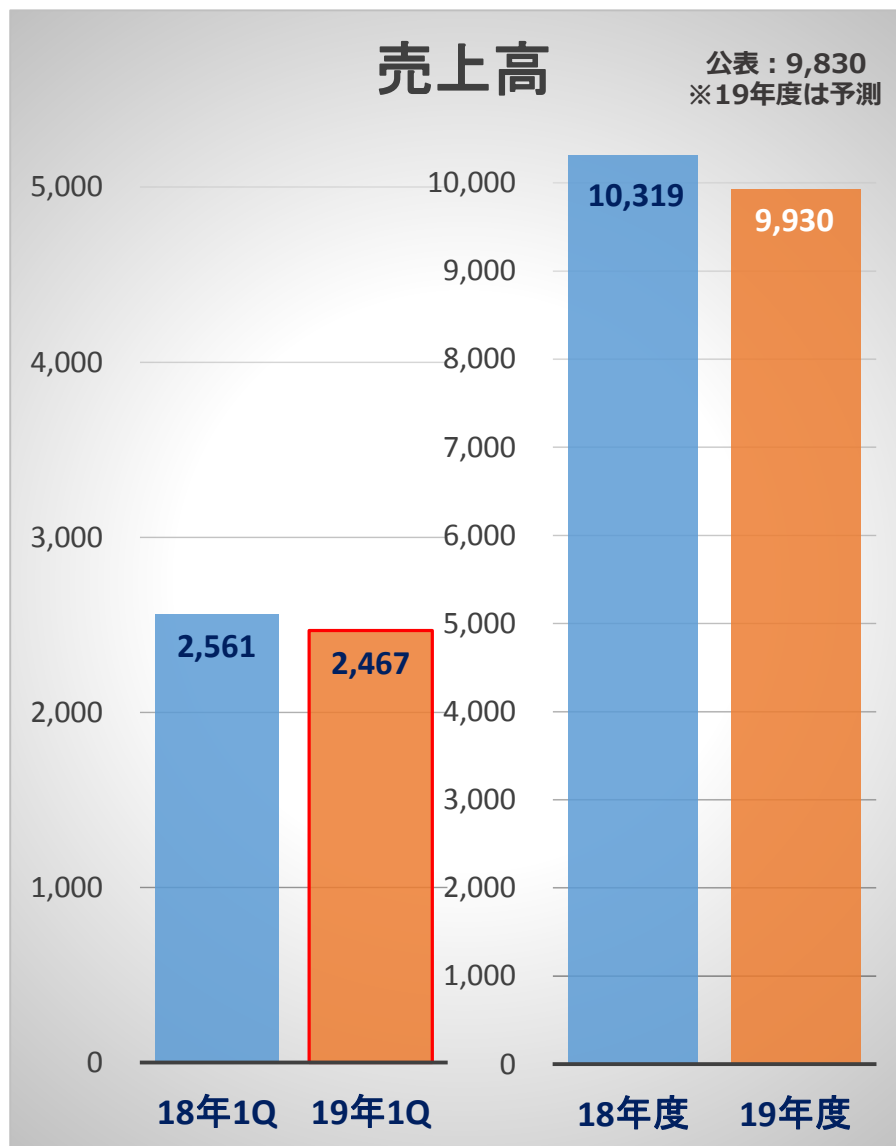
●2019年度 通期業績見通し

売上高については、ヤマハ発動機関連、四輪共に減少する見込みであり売上高9,930百万円（前期比3.8%減）を予想

営業利益についても、減収の影響と経費負担増加により、営業利益60百万円（前期比85.5%減）を予想

●2019年度 施策

工作機械事業の営業部門と一体となり、【エンシュウの強み】である自社で製造した機械を使用した加工事業（機械メーカーとユーザーの両側面）のアピールを行い、新規案件の受注に向けた営業活動を進めている



Ⅱ. (参考資料) 四半期業績推移 連結

(単位:百万円)

(累計期間)

						セグメント			
		売上高	営業利益	経常利益	純利益	工作機械関連		輸送機器関連	
						売上高	営業利益	売上高	営業利益
2017年3月期 (149期)	第1四半期	4,287	△ 161	△ 215	△ 229	1,775	△ 209	2,494	35
	上期	10,386	△ 170	△ 304	△ 340	5,158	△ 268	5,192	72
	第3四半期	14,363	△ 419	△ 576	△ 620	6,661	△ 694	7,648	236
	通期	20,846	△ 404	△ 726	△ 791	10,438	△ 850	10,337	394
2018年3月期 (150期)	第1四半期	4,150	△ 1	△ 34	△ 48	1,596	△ 162	2,536	148
	上期	11,110	444	315	280	6,110	127	4,964	290
	第3四半期	16,163	569	371	320	8,729	112	7,380	418
	通期	23,479	928	674	597	13,671	378	9,737	498
2019年3月期 (151期)	第1四半期	6,755	333	271	216	4,175	150	2,561	170
	上期	13,460	819	653	581	8,150	482	5,274	311
	第3四半期	23,047	1,902	1,661	1,049	15,101	1,445	7,892	418
	通期	30,747	2,599	2,266	1,616	20,357	2,132	10,319	415
2020年3月期 (152期)	第1四半期	6,314	655	577	504	3,828	659	2,467	△ 17



2020年2月

おかげさまでエンシュウは
創立100周年を迎えます

ENSHU
エンシュウ株式会社

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。